

姫路市一般廃棄物処理基本計画の全体像(計画期間:平成30~39年度)

現況と課題

国の動向	
主な取り組み	① 食品ロスの削減
	② 健全なリユース市場の構築
	③ 小型家電等の資源化
	④ 製造段階での環境配慮設計
	⑤ 流通・消費段階での容器包装の削減
	⑥ 情報提供及び環境学習の充実
	⑦ 廃棄物系バイオマスの利活用
国民事業者行政等	

兵庫県の動向	
主な取り組み	① 食品ロス削減
	② 古紙、容器包装、小型家電等の資源化
	③ 事業系ごみ処理料金の適正化
	④ 不適正処理の未然防止
	⑤ 高効率ごみ発電の導入
	⑥ 廃棄物系バイオマスの利活用
県民事業者行政等	

本市の現状・課題	
特徴	① 臨海部には鉄鋼、化学等の大・中小企業が集積し全国有数の工業地域となっており、中心部には商業・サービス業も発展している。
	② 日本初の世界文化遺産・国宝姫路城をはじめ、魅力ある文化・観光施設を保有しており、国内外から多くの観光客が来訪する。
	③ 秋祭りをはじめ、地域特有の文化に基づく活動が盛んであり、地域内の連携が強い。
現況	① 1人1日あたりの家庭系ごみは緩やかながらも減少傾向にある。
	② レジ袋の削減や詰め替え用品の利用など、市民のごみの減量化に対する関心も比較的高い。
	③ 食品ロス削減に対する関心も高いが、可燃ごみの中に未開封の食品や資源物の混入が見受けられる。
	④ 店頭回収や古紙回収ボックスの設置等、民間による自発的な資源化活動が活性化しており、これらの利用に対する市民の関心も高い。
	⑤ 行政の処理に基づく資源化率は低迷が続いている。
	⑥ 粗大ごみのステーション方式に不便を感じる市民もいる。
	⑦ 市民及び事業者の地域の美観保持に対する意識は高い。
課題	① 食品ロス削減の取り組み
	② 資源化率の向上
	③ 事業者の環境配慮型の製品・サービスの開発等に対する支援の検討
	④ 環境・美化に関する取り組みの周知、認知度の向上
	⑤ 粗大ごみのステーション方式に関する諸課題への対応
	⑥ ごみ焼却施設の適正配置の検討
	⑦ ごみ焼却施設の老朽化対策

基本的な考え方

(市民)
① 1人1日あたりの家庭系ごみ排出量は減少傾向にあるものの、可燃ごみに未開封・未利用食品や資源物が相当な割合で混入していることや、国や県が食品ロスの削減、古紙、容器包装廃棄物等の一層の資源化などへの取り組みを推進していることから、市民には、「食品ロスの削減」による減量化及び「分別の徹底」による資源化率の改善が求められます。

(事業者)
② 商工業が盛んな本市においては、国が製造・流通段階での環境配慮や容器包装等の削減への取り組みを推進していることを、「製造業」、「飲食業」、「小売業」を中心とした事業者が当該取り組みを推進し、環境配慮事業活動の先進優良事例として全国に発信する機会と捉えます。

(行政)
③ 市には、循環型社会形成へ向けた取り組みが効率的に図られるよう、様々な分野を繋げるコーディネーターとしての役割が求められます。また、国や県が高効率発電の実施や廃棄物系バイオマスの利活用への取り組みを推進していることから、既存の美化センターの延命化や新美化センターの整備において、当該取り組みの導入検討が求められます。

(3者協働)
④ 市民・事業者が、共に持つ美観保持に対する意識の高さを、本市をより美しく、魅力ある住み良いまちづくりに活かすことが必要です。また、それがにぎわいある交流都市への一助となることが期待されます。

市民・事業者・市(行政)がそれぞれの役割を果たしつつ、連携・協働して持続可能な循環型社会のまちづくりを目指す。

基本方針

環境問題を意識し、循環型社会にふさわしくらが定着する都市(まち)	
市民の姿	市民一人ひとりが環境問題を意識し、発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)をより一層意識したライフスタイルを実践している。

環境負荷低減に配慮した企業活動を行う都市(まち)	
事業者の姿	排出者責任や拡大生産者責任の考え方の定着に加え、商工業が盛んな本市では、環境負荷低減に向けた環境配慮型のビジネススタイルが確立している。

適正かつ高度でありながらも市民生活と調和したごみ処理システムを備えた都市(まち)	
行政の姿	適正かつ確実なごみ処理事業を実施するのはもちろんのこと、収集体制の効率化や高効率なエネルギー生成を実現するごみ処理施設など、効率的で高度なごみ処理システムを構築し、循環型社会実現に向けた土壌を形成している。 また、市民や事業者の取り組みを支援する仕組みや適切な情報が容易に得られる仕組みが提供されているほか、市民が楽しみ、学びながら利用できる機能を持った処理施設を整えるなど、親しみやすいごみ処理行政が行われている。

住む人・訪れる人にとって気持ちの良い清潔な都市(まち)	
3者協働の姿	3者(市民、事業者、行政)が協働して、住んでいる人にはもちろん、本市を訪れる人にも誇れるごみのない美しいまちづくりに取り組んでいる。

基本施策

取り組み	重点施策
◆ 発生抑制 (Reduce) 「食品ロスの削減」、「マイバッグの持参」、「マイ箸、マイボトルの利用」、「過剰包装の拒否」、「製品の長期使用」等によりごみの発生抑制を図ります。 ◆ 再使用 (Reuse) 「詰め替え用品の利用」、「フリーマーケット、リサイクルショップの利用」、「レンタル商品の利用」等によりリユースを図ります。 ◆ 再生利用 (Recycle) 「分別の徹底」、「店頭回収等の利用」、「生ごみの堆肥化」等により再生利用を図ります。	◇ 食品ロスの削減 「計画的な食品購入」、「食材の使い切り」、「料理の食べ切り」、「賞味期限の正しい理解」により、家庭系可燃ごみに混入している食品ロスの削減を図ります。 ◇ リユースの促進 市民同士が不用品交換やリサイクルショップの利用に関する情報をインターネット等も活用しながら把握し、リユースの促進を図ります。 ◇ 分別の徹底 本市の分別区分に則した分別を徹底することで、家庭系可燃ごみに混入している資源物の資源化を図ります。

取り組み	重点施策
◆ 環境にやさしい製品・サービスの開発・提供 「環境配慮型製品の開発・普及」、「過剰包装の抑制」、「ばら売りや量り売り等の実施」、「食品ロスの削減」等により製造・流通段階でのごみの発生抑制を図ります。 ◆ 環境にやさしい経済活動 「詰め替え用品の利用」等によるリユースや「リサイクル事業者の積極活用」、「再生品の利用」等による再生利用を促し、事業活動に伴う廃棄物の発生抑制を図ります。	◇ 環境配慮型製品・サービスの開発・普及・提供 自然エネルギーの利用や軽量包装の開発、店頭回収の実施等、環境に配慮した製品・サービスの開発・普及・提供により環境負荷の低減を図ります。 ◇ 食品ロス削減に向けた取り組み 飲食店での「食べ切り運動」の取り組み、小売店での「ばら売り」や「量り売り」の取り組み等を推進し食品ロスの削減を目指します。

取り組み	重点施策
◆ 周知・啓発活動の充実 「広報の見直し」、「イベント等における周知・啓発活動の強化・改善」等に取り組み、市民・事業者のごみや環境問題に対する関心を高めます。 ◆ 新たな処理システムの検討 「水銀含有物の分別収集」、「粗大ごみの戸別収集」、「処理手数料の適正化」、「小型家電の有効活用」、「収集・運搬の効率化」、「ごみ焼却施設の集約化」等、新たな処理システムを検討します。 ◆ 適正処理の推進 「事業系ごみの組成分析」、「搬入ごみの展開検査」、「事業者アンケートに基づく指導」等、不適物混入の実態把握・防止を図り、適正処理を推進します。 ◆ ごみ処理施設の高度化 「市川美化センターの老朽化対策」、「ごみ焼却時の高効率エネルギー回収」等、効率性・経済性に優れたごみ処理施設の整備・検討を進めます。 ◆ 循環型社会の実現に向けた連携の活用 3Rの推進や環境意識の醸成を図るため、市民・事業者だけでなく、教育機関など様々な分野との連携を積極的に活用し、諸課題の解決に努めます。	◇ 広報の見直し 市民や事業者が求める情報を的確に把握し、ごみの減量化・資源化がより一層推進されるよう、新たな広報活動を検討します。 ◇ 処理手数料の適正化 戸別収集に伴う粗大ごみの有料化、事業系ごみ等の持ち込み手数料改定など、近隣市町村の動向を注視しつつ処理手数料の適正化を図ります。 ◇ 事業系ごみの展開検査 事業系ごみの展開検査を定期的の実施し、不適物混入を防止します。 ◇ 将来ごみ処理施設の検討 市川美化センターの老朽化対策に加え、将来的なバイオマスのエネルギー利用や、より高度な資源化等の機能を見据えるとともに、住民生活環境との親和性が高い、新美化センターの整備を検討します。 ◇ 環境教育・啓発における大学等との連携 大学や学生等と連携し、小中学生に対する環境教育や環境問題に関心の低い若者向けへの啓発など、多世代への取り組みについて検討します。

取り組み	重点施策
◆ 3者協働による美化活動の充実 「みどりの美化キャンペーン」や「まちの美化清掃ボランティア活動」等の美化活動を強化・拡大するとともに、新たに3者が協働する仕組みを検討し、美しいまちづくりの充実に図ります。	◇ 新しい3者協働体制の推進 まちの美化清掃ボランティア活動等の取り組みを積極的にPRするとともに、市民や事業者が独自に実施している清掃活動等を情報の把握し、それらのマッチングを図ること、新たな3者協働体制によるまちの美観維持・向上のための取り組みを推進します。

基本理念(目指す都市像)

3Rが浸透したライフスタイルをおくる市民と環境配慮型ビジネススタイルを確立した事業者と循環型社会の実現に向けた基盤づくりに努める行政が

それぞれの役割を果たしつつ、3者が協力し合いつつ、環境に優しく(Ecological)、快適で(Comfortable)、姫路らしさ(Original)を大切に「取り組み」未来に誇れるECOな都市(まち)を目指す。